

L12b 非直線経路の流星

戸田雅之(日本流星研究会 流星痕同時観測チーム), 渡部潤一、石崎昌春(国立天文台 天文情報センター), 上田昌良(日本流星研究会), 重野好彦(流星物理セミナー), 佐藤幹哉(かわさき宙と緑の科学館), 飯島 裕(天体写真家), 飯島士郎(静岡県伊東市在住)

流星経路はほとんどが直線である。しかし、一部の流星経路が非直線であるという報告がある。M. Beech は非直線流星の情報を精力的に収集し(1989, 1992)、主に 1800 年代の多くの眼視観測から非直線流星の分析を行っている(1988)。19 世紀は流星観測において眼視観測は唯一の観測方法だった。現在の流星観測は写真やビデオのような再現性がある記録媒体で記録されている。発表者の中には高感度デジタルカメラを使用して 2000 個近くの流星をチェックしている者もいれば、同時流星観測で 3000 以上の写真および TV 流星を測定している者もいるが、どちらも非直線流星をみたことがないと述べている。

2012 年 12 月と 1 月に非直線経路の流星がデジタルカメラで撮影された。2 例の非直線流星について予稿投稿時点では 1 件は天然起源のものでは無いことがわかった。もう 1 件は調査中である。本発表では 2 例の非直線流星の撮影から同時流星の調査、非直線か直線が追認されるまでのいきさつを報告する。非直線流星画像や同時流星観測情報や画像は撮影者や SonotaCo ネットワークのご協力が得られた。この場を借りて感謝いたします。